

フチグロトゲエダシャクの神鍋高原からの記録

刈田 悟史¹⁾

はじめに

フチグロトゲエダシャク (*Nyssiodes lefuarius*) は早春にのみ出現する昼行性のフユシャクの仲間であり、兵庫県下では美方郡新温泉町の岸田川沿いでのみ確認されていたが、近年神鍋高原において本種の生息が確認された。

筆者は直接の発見者ではないが、発見者から情報を得て調査した経緯があることから、他の方々の調査状況等も含め、現状までの状況をまとめて報告する。

確認の経緯

2016年3月20日、水谷高典氏が自然探索の際に偶然確認されたのが最初の記録となる。確認時刻は12時過ぎで晴天であり、20頭以上が飛翔していたとのこと。3月26日にも同じ時間帯に再訪され、曇天にもかかわらず静止個体を数個体確認されている。

また、山崎悠高氏も3月21日に同地を訪問、30♂♂2♀♀を確認されているとのことである。筆者も遅れて同年4月3日に同地を訪れたが、あいにくの悪天候のため飛翔する1♂を目撃するのみとなった。

筆者は、2018年3月25日に、ようやく晴天の同地に再訪できたが、その際には、広い草地全体に非常に多数のオスが飛び交っており、メスや交尾個体も確認でき

た。また、同年には表1の通り生息調査も実施されたので合わせて報告する。

考察

本種は記載後しばらくの間は非常に希産種とされていたが、生態が解明されてからは、北海道から九州までの広い範囲で確認されている。

従来確認されている産地のほとんどは、洪水や草刈りなどで攪乱が起きやすい大規模河川の河川敷であり、今回のように河川から大きく離れた産地の報告は少ない。

しかし、過去の記録を確認すると、熊本県阿蘇山の標高954mのという高標高地点や、静岡県朝霧高原からの記録もあり、低地の河川敷に固有の種類とはいえないようである。適度に攪乱のある草地という意味では、河川敷だけではなく、今回のようなスキー場や、あるいは牧草地なども生息条件を十分満たしている。早春の枯れ草だらけの草地を訪れる虫屋が少ないだけのことで、意外に人知れずあちこちの山地に生息している可能性があるようにも思われる。今後同様の環境を確認することで、さらに分布域が広がる可能性が期待できる。

謝辞

発見後に詳細な情報をご提供いただいた水谷高典氏、調査データを提供いただいた山崎悠高氏、植田義輔氏、近藤伸一氏、過去の記録に関する文献を紹介いただいた阪本優介氏にここで厚くお礼申し上げる。

参考文献

- 安達誠文, 2012. 兵庫県におけるフチグロトゲエダシャクの調査. きべりはむし, 34(2), 1-3.
 永幡嘉之, 2001. 兵庫県におけるフチグロトゲエダシャクの採集例. 月刊むし, 370
 中島秀雄, 1998. 日本産フユシャクガ類(鱗翅目, シャクガ科)の分類学的, 生態学的研究. 151-154

表1 2018年の発生状況.

| 調査日 | 確認状況 | 調査者 | 調査内容等 |
|------------|----------|--------------|-----------------------------|
| 2018年3月17日 | ♂少数 | 山崎悠高 | スキー場の斜面下部分布調査; 曇 |
| 2018年3月18日 | ♂多数, ♀少数 | 山崎悠高 | スキー場の斜面下部分布調査; 晴 |
| 2018年3月25日 | ♂多数, ♀少数 | 植田義輔 | 山麓周回路, 登山道, 山頂周回路の分布調査; 晴 |
| 2018年3月26日 | ♂多数, ♀少数 | 近藤伸一 植田義輔 | ルートセンサス, 飛翔ルート調査; 晴 |
| 2018年3月28日 | ♂多数, ♀少数 | 近藤伸一 植田義輔 | ルートセンサス, 登山道, 山頂周回路の分布調査; 晴 |
| 2018年3月29日 | ♂少数, ♀多数 | 近藤伸一 植田義輔 | メスの生態調査; 晴 |
| 2018年4月3日 | ♀少数 | 近藤伸一 植田義輔 | メスの生態調査; 晴 |
| 2018年5月16日 | 幼虫多数 | 近藤伸一 | 幼虫分布調査, 若齢~中齢 |
| 2018年5月18日 | 幼虫多数 | 近藤伸一 | 幼虫分布調査, 若齢~中齢 |
| 2018年5月27日 | 幼虫多数 | 近藤伸一 | 幼虫分布調査, 中齢~終齢 |

¹⁾ Satoshi KARITA 兵庫県たつの市



写真1 生息地の環境.



写真2 フチグロトゲエダシャク♂. 2018年3月25日撮影.



写真3 フチグロトゲエダシャク♀. 2018年3月25日撮影.



写真4 交尾するフチグロトゲエダシャク. 2018年3月25日撮影.